

## 3 発問や指示は的確に

### 「何のため」の発問・指示か

発問・指示によって、生徒による自主的な活動を促し、生徒の思考・理解を深め、授業のねらいの実現を図ります。授業のどの段階で、どのような目的を持ち、どのような言葉を用いて発問するのか、生徒の思考の流れを意識して、考えておくことが大切です。

#### ☆限定質問と拡大質問

限定質問とは、答えをYes/Noで答えさせたり、いくつかの選択肢から選ばせたりする質問です。生徒の知識や理解度を確かめることができます。

拡大質問とは、What（何）？やHow（どのように）？などの質問であり、生徒の知識や技能を基に「考えさせる」質問です。

それぞれの質問を効果的に授業に取り入れましょう。

### 主要な発問・指示と補助的な発問・指示

発問には、授業のねらいを生徒に押さえるための主要な発問と、それを導いたり補ったりする補助的な発問があります。

発問・指示のタイミングは、初期段階で主要な発問・指示を行い、後半はその確認や応用による定着を図る、あるいは、ねらいに迫るための補助的な発問・指示を通し生徒の思考を深めてから、主要な発問・指示を行うなど、授業の目標に合わせて構成します。

### 分かりやすく伝えるために

生徒がノートを書いているときや、グループ活動のときなど、聞くという姿勢がないときに、発問・指示をしても生徒は理解できません。「話を止めて、前を見てください。」と指示した後に発問するなど、生徒に聞く姿勢を取らせることが大切です。

また、適切な発問や指示を行うことで、教材をより効果的に活用することができます。生徒の知識・理解度、興味・関心など、実態に合わせて、発問・指示を工夫しましょう。伝えたいことを、筋道を立て、分かりやすい言葉で、簡潔に伝えることも大切です。

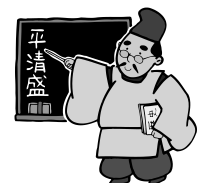
個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

#### 発問・指示を、より分かりやすくするためには…

言語指示だけでは理解することが難しい生徒もいます。こうした生徒には聴覚だけでなく視覚からも理解できるように工夫をしましょう。

- 例えば、
- ・発問内容を書いた紙を黒板に掲示する
  - ・教科書や問題集の使うページを板書する
  - ・作業の工程を図やイラストで提示する

「発問・指示は端的に、分かりやすい言葉で」を常に心掛けましょう。



## 発問の例から考える

次の発問の仕方には課題があります。改善点を考えてみましょう。

「保温ポットに入れた 200g の水をクラス 40 名が 30 回ずつ振ったら水の温度は何℃変化するでしょうか？」(理科・物理基礎・熱湯温度)

発問の中にたくさんの情報が提示されており、生徒が課題の内容を正しく理解できないことも生じます。内容を段階的に整理して視覚情報を効果的に活用して伝えるとよいでしょう。

### 改善例

- 「保温ポットに水を200g入れます。」
- 「これをクラス40名が順番に30回ずつ振ります。」
- 「全員が振り終わったとき、水の温度は何℃変化するでしょうか。」

\*実物・実演、ポイントを書いたカード、イラストなどの活用が効果的です。

## 話し方のポイント

### 授業の導入のトピックス

授業の最初に、生徒の気持ちを引き付けたいものです。そのためは、導入の話題がポイントになります。生徒の関心を高める話題、授業の内容につながる話題等、生徒の実態に合わせて工夫しましょう。

### 生徒の顔を見る

「このことを分かりやすく伝えたい」と思うとき、教科書や黒板を見ながら伝えたのでは、生徒の心には何も響きません。

常に、生徒の顔を見て話すように心掛けましょう。一番後ろの生徒に向かって話すときの声が教室中に響く声の大きさです。生徒に向かって、生徒の表情を確かめて伝えます。

### ポイントをおさえるとき

「これが大事なこと」と伝えるとき、話し方を変えてみましょう。わざと小さな声で話す、反対に大きな声で強調する、ゆっくりと話すなどによって、注意を引くことができます。

また、言葉を繰り返したり、書き留めたりすることも効果的ですし、教師が沈黙することで生徒の注目が集まることもあります。

## ☆生徒からの質問を促す

教師が生徒の質問に答えることで、生徒の理解を助けるだけでなく、一つの疑問をクラスで共有することができます。普段から質問し易い雰囲気を演出し、質問することの大切さを教えましょう。

同時に、教師自身も、質問が出ないときの促し方や、質問への対応の仕方など意識して磨いておきましょう。

## ☆全ての質問に答えるべきか？

生徒の質問の中には、教科書やノートを見れば解決する質問もあるかもしれません。また、生徒自身に考えてほしいポイントに助言してしまっただけでは、せっかくの思考のチャンスをつぶしてしまうことになります。場に応じて対応できるようにしておきましょう。

## 生徒のやる気を促す言葉掛け

「認めてもらいたい」、「向上(成長)したい」という願望は誰にでもあるものです。その願望を叶えるような建設的な言葉がやる気を引き出します。例えば、「この問題は難しい・・・」の後に「だからできないのね」という否定的な言葉を続けるよりも、次のステップを示した「けれど、解く糸口を見付けられたら素晴らしいよ」と励ますことでやる気を引き出すことができるでしょう。生徒の状況や個性・価値観などを尊重する言葉やあるがまま受容している言葉を投げ掛け、前向き・肯定的な評価や助言をするように心掛けましょう。